



インストール・ガイド

---

# Replication Server<sup>®</sup> 15.7.1

UNIX

ドキュメント ID：DC37514-01-1571-01

改訂：2012年6月

Copyright © 2012 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

アップグレードは、ソフトウェア・リリースの所定の日時に定期的に提供されます。このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連のすべての商標は、米国またはその他の国での Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

# 目次

表記の規則 .....	1
インストール作業の概要 .....	5
インストール・タスク・フロー .....	5
<b>Replication Server のコンポーネント .....</b>	<b>7</b>
インストールの計画 .....	9
Replication Server リリース・ノート .....	9
混合バージョンのサポート .....	9
SPDC または SMP からのライセンスの取得 .....	10
SySAM ライセンス・サーバ .....	12
IPv6 の設定 .....	13
SySAM ライセンスのチェックアウト .....	14
製品エディションとライセンス・タイプ .....	14
サブキャパシティ・ライセンス .....	17
システムの稼働条件 .....	19
UNIX での Replication Server のシステム稼働 条件 .....	19
インストール・ディレクトリ構造 .....	24
UNIX プラットフォームでの独自のディレクト リへの Replication Server のインストール .....	26
インストール・ディレクトリの内容とレイア ウト .....	26
インストールの設定オプション .....	27
インストール・モード .....	28
管理作業の実行 .....	28
Sybase ユーザ・アカウントの作成 .....	29
<b>Replication Server のインストール .....</b>	<b>31</b>
インストール・メディアのマウント .....	31
GUI モードでの Replication Server のインストール .....	32

Replication Server Data Assurance オプション のインストール .....	37
コンソール・モードでの Replication Server のイン ストール .....	37
応答ファイルを使用した Replication Server のイン ストール .....	37
応答ファイルの作成 .....	38
応答ファイルを使用した GUI モードでのイン ストール .....	38
サイレント・モードでのインストール .....	39
インストール時に発生する問題のトラブルシュー ティング .....	40
コマンド・ライン・オプション .....	40
<b>インストール後の作業 .....</b>	<b>43</b>
ログ・ファイル .....	43
RSSD 用 Adaptive Server .....	43
サンプル Replication Server の設定 .....	44
interfaces ファイルのサーバ・エントリ .....	45
UNIX での環境変数 .....	46
runserver ファイル .....	47
<b>Replication Server のアンインストール .....</b>	<b>49</b>
GUI モードでのアンインストール .....	49
コンソール・モードでのアンインストール .....	50
サイレント・モードでのアンインストール .....	51
<b>追加の説明や情報の入手 .....</b>	<b>53</b>
サポート・センタ .....	53
Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロー ド .....	53
Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認 .....	54
MySybase プロファイルの作成 .....	54
アクセシビリティ機能 .....	55
<b>索引 .....</b>	<b>57</b>

# 表記の規則

ここでは、Sybase® マニュアルで使用しているスタイルおよび構文の表記規則について説明します。

## 表記の規則

構文要素	定義
等幅 (固定幅)	<ul style="list-style-type: none"> <li>SQL およびプログラム・コード</li> <li>表示されたとおりに入力する必要があるコマンド</li> <li>ファイル名</li> <li>ディレクトリ名</li> </ul>
斜体等幅	SQL またはプログラム・コードのスニペット内では、ユーザ指定の値のプレースホルダ (以下の例を参照)
<i>italic</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルおよび変数の名前</li> <li>他のトピックまたはマニュアルとの相互参照</li> <li>本文中では、ユーザ指定の値のプレースホルダ (以下の例を参照)</li> <li>用語解説に含まれているテキスト内の用語</li> </ul>
<b>bold sans serif</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コマンド、関数、ストアド・プロシージャ、ユーティリティ、クラス、メソッドの名前</li> <li>用語解説のエントリ (用語解説内)</li> <li>メニュー・オプションのパス</li> <li>番号付きの作業または手順内では、クリックの対象となるボタン、チェック・ボックス、アイコンなどのユーザ・インタフェース (UI) 要素</li> </ul>

必要に応じて、プレースホルダ (システムまたは設定固有の値) の説明が本文中に追加されます。次に例を示します。

次のコマンドを実行します。

```
installation directory¥start.bat
```

*installation directory* はアプリケーションがインストールされた場所です。

構文の表記規則

構文要素	定義
{ }	中カッコで囲まれたオプションの中から必ず1つ以上を選択する。コマンドには中カッコは入力しない。
[ ]	角カッコは、オプションを選択しても省略してもよいことを意味する。コマンドには角カッコは入力しない。
( )	このカッコはコマンドの一部として入力する。
	縦線はオプションのうち1つのみを選択できることを意味する。
,	カンマは、表示されているオプションを必要な数だけ選択でき、選択したものをコマンドの一部として入力するときにカンマで区切ることを意味する。
...	省略記号(...)は、直前の要素を必要な回数だけ繰り返し指定できることを意味する。省略記号はコマンドには入力しない。

大文字と小文字の区別

- すべてのコマンド構文およびコマンドの例は、小文字で表記しています。ただし、複写コマンド名では、大文字と小文字が区別されません。たとえば、**RA\_CONFIG**、**Ra\_Config**、**ra\_config** は、すべて同じです。
- 設定パラメータの名前では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、**Scan\_Sleep\_Max** は、**scan\_sleep\_max** とは異なり、パラメータ名としては無効になります。
- データベース・オブジェクト名は、複写コマンド内では、大文字と小文字が区別されません。ただし、複写コマンドで大文字と小文字が混在したオブジェクト名を使用する場合(プライマリ・データベースの大文字と小文字が混在したオブジェクト名と一致させる場合)、引用符でオブジェクト名を区切ります。次に例を示します。 **pdb\_get\_tables "TableName"**
- 識別子および文字データでは、使用しているソート順によっては大文字と小文字が区別されます。
  - “binary” などの大文字と小文字を区別するソート順を使用する場合には、識別子や文字データは、大文字と小文字を正しく入力してください。
  - “nocase” などの大文字と小文字を区別しないソート順を使用する場合には、識別子や文字データは、大文字と小文字をどのような組み合わせでも入力できます。

*用語*

Replication Agent™ は、Adaptive Server® Enterprise、Oracle、IBM DB2 UDB、Microsoft SQL Server 用の Replication Agent を表現するために使用される一般的な用語です。具体的な名前は、次のとおりです。

- RepAgent — Adaptive Server Enterprise 用の Replication Agent スレッド
- Replication Agent for Oracle
- Replication Agent for Microsoft SQL Server
- Replication Agent for UDB — Linux、Unix、Windows 用の IBM DB2

## 表記の規則



# インストール作業の概要

Replication Server®を正常にインストールおよび設定するには、『Replication Server 設定ガイド』と『Replication Server インストール・ガイド』を参照してください。

『Replication Server インストール・ガイド UNIX 版』では、Replication Server ソフトウェアを配布メディアからハード・ディスクにアンロードする方法について説明します。

『Replication Server 設定ガイド UNIX 版』では、次の作業について説明します。

- 設定に向けてシステムを準備するために必要な情報を収集する。
- Replication Server を設定し、複製システムにデータベースを追加する。
- 既存の Replication Server システム・データベース (RSSD: Replication Server System Database) をアップグレードする。
- 既存の RSSD をダウングレードし、以前のバージョンのソフトウェアを再インストールする。
- Replication Server または RepAgent のパスワードの暗号化を有効にする。
- Replication Server または RepAgent を起動および停止する。

『Replication Server 設定ガイド UNIX 版』の「Replication Server のインストールと設定の準備」には、インストール・ワークシートやデータベース設定ワークシートなど、複製システムのプラン作成に役立つ情報が含まれています。

## インストール・タスク・フロー

---

タスク・フローによって、計画、インストール、およびアンインストールを含む完全なパスが定義されます。

シナリオを最もよく表すパスを選択してください。

---

**注意：**このトピックを印刷し、チェックリストとして使用してください。

---

### 製品の初回インストール

1. インストールを計画し、システムの稼動条件を確認します。「インストールの計画」(9 ページ)および「システムの稼動条件」(19 ページ)を参照してください。
2. Replication Server をインストールします。「Replication Server のインストール」(31 ページ)を参照してください。

## インストール作業の概要

3. インストール後の作業を実行します。「インストール後の作業」(43 ページ)を参照してください。

### *Replication Server* のアンインストール

Replication Server をアンインストールします。「Replication Server のアンインストール」(49 ページ)を参照してください。

## Replication Server のコンポーネント

Replication Server ソフトウェアには、複数のコンポーネントの他に、さまざまなサポート・ファイルが含まれています。

Replication Server は、次のコンポーネントで構成されています。

- Replication Server
- Replication Server サポート・ファイル (スクリプト・ファイルや設定ファイルなど)
- SQL Anywhere® for Embedded Replication Server システム・データベース (ERSSD)

---

**注意：** Embedded Replication Server システム・データベース (ERSSD) には Sybase SQL Anywhere が必要です。ERSSD は、64 ビット版の Linux on POWER ではサポートされていません。

---

- ERSSD 用 RepAgent

## Replication Server のコンポーネント

# インストールの計画

インストールまたはアップグレード前に、環境を準備します。

- インストールまたはアップグレードするコンポーネントとオプションを確認します。
- ライセンスを取得します。

---

**注意：** サード・ライセンスを使用する場合は、SySAM ライセンス・サーバ・バージョン 2.1 以降をインストールする必要があります。

---

- システムのすべての稼働条件がインストール・シナリオおよび用途に一致していることを確認します。

## Replication Server リリース・ノート

---

『リリース・ノート』には最新情報が含まれています。

『リリース・ノート』には、Replication Server ソフトウェアのインストールとアップグレードに関する最新の情報が含まれています。

最新のリリース・ノートは、Sybase 製品マニュアル Web サイト (<http://www.sybase.com/support/manuals>) から入手できます。

## 混合バージョンのサポート

---

混合バージョン環境では、Replication Server はバージョン 12.6 以降である必要があります。

複写システム・ドメインに Replication Server 15.5 以降がある場合は、複写システム・ドメインのシステム・バージョンとルート・バージョンが 12.6 以降でなければなりません。Replication Server 15.5 は、12.6 より前のバージョンが含まれている混合バージョン環境をサポートしていません。

使用しているプラットフォームの『Replication Server 設定ガイド』の「バージョン 15.5 以降へのアップグレード要件」を参照してください。

---

**注意：** 12.6 より前のバージョンからのアップグレードには中間アップグレードが必要です。使用しているプラットフォームの『Replication Server 設定ガイド』の「Replication Server のアップグレードまたはダウングレード」を参照してください。

---

## SPDC または SMP からのライセンスの取得

製品をインストールする前に、SySAM ライセンス・モデルを選択し、ライセンス・サーバ情報を決定し、ライセンス・ファイルを取得します。

SySAM 2 対応の Sybase 製品を購入したときに、SySAM 製品ライセンスを生成し、ダウンロードして、配備する必要があります。

- Sybase または Sybase 認定販売店から製品を購入した場合は、セキュアな Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) (<https://sybase.subscribenet.com>) にアクセスしてログインし、ライセンス・キーを生成します。ライセンスの生成プロセスは、製品の注文先が Sybase か Sybase 再販業者かによって若干異なる場合があります。
- SAP® コントラクトで製品を注文し、SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) からダウンロードするよう指示された場合は、<http://service.sap.com/licensekeys> で SMP を使用して、SySAM 2 ベースのライセンスを使用する Sybase 製品のライセンス・キーを生成します。

### 1. SySAM ライセンス・モデルを選択します。

ライセンス・モデル	説明
[アンサーブド・ライセンス・モデル]	ライセンス・ファイルからライセンスを直接取得します。アンサーブド・ライセンスを使用する場合は、製品をインストールするマシンにライセンスを保存する必要があります。
[サブド・ライセンス・モデル]	複数マシンに対するライセンスの割り当てをライセンス・サーバを使用して管理します。

### 2. サブド・ライセンス・モデルを選択する場合、既存のライセンス・サーバを使用するか、新しいライセンス・サーバを使用するかを決定してください。

ライセンス・サーバと製品は、インストールするマシン、オペレーティング・システム、またはアーキテクチャが同じである必要はありません。

### 3. サブド・ライセンス・モデルを選択した場合は、次の手順に従います。

- SySAM 1.0 ライセンス・サーバを実行しているマシンに製品をインストールする場合、『SySAM ユーザーズ・ガイド』のマイグレーションの指示に従い、新しい SySAM バージョンにマイグレートします。

**注意：** 指定したマシンに、実行している SySAM ライセンス・サーバのインスタンスが 1 つしかない場合もあります。すでに SySAM 1.0 ライセンス・サーバ

を実行しているマシンで SySAM 2 ライセンス・サーバをセットアップするには、古いライセンス・サーバを SySAM 2 にマイグレートする必要があります。マイグレートされたライセンス・サーバは、SySAM 1.0 に対する製品と SySAM 2 に対する製品の両方にライセンスを提供できます。

---

4. ホスト ID を取得します。

Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) または SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) でライセンスを生成するときに、ライセンスを配備するマシンのホスト ID を指定する必要があります。

- アンサーブド・ライセンスの場合 — 製品を実行するマシンのホスト ID。SySAM サブキャパシティをサポートする製品を CPU ごとまたはチップごとのライセンスで実行していて、その製品を仮想化環境で実行する場合は、『SySAM ユーザーズ・ガイド』の「SySAM サブキャパシティ・ライセンス」を参照してください。
- サーブド・ライセンスの場合 — ライセンス・サーバを実行するマシンのホスト ID。

5. Sybase または Sybase 認定販売店から入手したアクセス情報を使用して、SPDC または SMP からライセンス・ファイルを取得してから、製品をインストールします。

Welcome メール・メッセージの情報を使用して SPDC または SMP にログインしてください。

---

**注意：** Sybase 認定販売店から Sybase ソフトウェアを購入した場合は、電子メール・メッセージではなく Web キーが送付される場合があります。

---

サブキャパシティ・ライセンスを使用する予定がある場合は、**sysamcap** ユーティリティを使用するための設定方法について『SySAM ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

**sysadmin lmconfig** を使用して、Replication Server でライセンスの管理に関連する情報を構成して示します。『Replication Server リファレンス・マニュアル』の「Replication Server コマンド」の「**sysadmin lmconfig**」を参照してください。

**参照：**

- 製品エディションとライセンス・タイプ (14 ページ)

## SySAM ライセンス・サーバ

必要な SySAM ライセンス・サーバのバージョンがインストールされていることを確認します。Replication Server 15.5 以降には、プラットフォームごとに異なる FLEXnet Publisher ライセンス・サーバ・マネージャが含まれています。

- ライセンス・サーバのバージョン  
インストールする SySAM ライセンス・サーバは 2.1 以降である必要があります。現在のライセンス・サーバのバージョンを確認するには、**sysam version** コマンドを使用します。

---

**注意：**バージョン 2.0 以前のライセンス・サーバでは、このコマンドは使用できません。

---

最新のライセンス・サーバは、SySAM ライセンス・サーバとユーティリティのインストールの Web サイト (<http://www.sybase.com/sysam/server>) からダウンロードしてください。

- FLEXnet Publisher のバージョン

**表 1: UNIX プラットフォームでサポートされている FLEXnet Publisher のバージョン**

プラットフォーム	FLEXnet Publisher のバージョン
HP-UX Itanium (64 ビット版)	11.6
IBM AIX (64 ビット版)	10.8.5
IBM p-Series 用 (Linux on POWER) (64 ビット版)	11.5
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) (32 版および 64 ビット版)	11.5
SuSE Linux Enterprise Server (SLES) (32 ビット版および 64 ビット版)	11.5
Solaris SPARC 8、9、10 (64 ビット版)	11.5
Solaris 10 x86-64 (64 ビット版)	11.5

SySAM ライセンス・サーバを使用する場合は、SySAM ライセンス・サーバを少なくともバージョン 2.1 (すべてのプラットフォームの FLEXnet Publisher バージョン 11.6.1 ライセンス・サーバ・コンポーネントが含まれます) に更新してから、Replication Server 15.7.1 をインストールする必要があります。ライセンス・サーバのバージョンを確認するには、ライセンス・サーバのログを調べるか、次のコマンドを実行します。



```
cd $SYBASE/SYSAM-2_0/bin
./lmutil lmver lmgrd
```

## IPv6 の設定

**sysam configure** コマンドを使用して、環境に適したライセンス・サーバのバージョンを選択してください。

Replication Server には、IPv4 および IPv6 バージョンの SySAM ライセンス・サーバのソフトウェアが含まれています。デフォルトでは、IPv4 バージョンの SySAM ライセンス・サーバを使用するように設定されます。

ライセンス・サーバ・ホストで IPv6 を有効にしている場合は、IPv4 バージョンのライセンス・サーバを正しく使用できません。この場合、次のように対応できません。

- ライセンス・サーバ・ホストで IPv6 TCP/IP プロトコルを無効にします。
- IPv6 を有効にしていない別の Windows ホストを使用します。
- ライセンス・サーバに Unix ホストを使用します。UNIX では IPv4 と IPv6 の両方が有効になっていても、IPv4 バージョンのライセンスを使用できます。

Windows ホストで IPv6 バージョンのライセンス・サーバを使用している場合は、IPv6 プロトコルを介してのみこのライセンス・サーバにアクセスできます。IPv4 専用のネットワーク・スタックを持つホストは、この IPv6 ライセンス・サーバからライセンスを取得できません。この問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

- ライセンス・サーバに Unix ホストを使用します。UNIX 上のライセンス・サーバは、IPv4 と IPv6 の両方のクライアント・ホストに対してライセンス処理を実行できます。
- 2 台の別々の Windows マシンを使用します。ネットワーク内の異なる 2 つのホスト上にライセンス・サーバを 2 つ設定して、1 つを IPv4 ネットワーク用、もう 1 つを IPv6 ネットワーク用とします。

次の SySAM スクリプトを使用すると、適切なバージョンのライセンス・サーバを設定できます。

```
sysam configure [IPv6|IPv4]
```

たとえば、IPv4/IPv6 デュアル・スタック・バイナリの使用を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
sysam configure IPv6
```

## SySAM ライセンスのチェックアウト

15.6 より前のバージョンでは、プロセッサごとのライセンス・タイプを使用して Replication Server がライセンスされた場合、ライセンス数は起動時に決定されていました。

このリリースでは、Replication Server は使用できるプロセッサの数を定期的にチェックして、増加した場合は追加のライセンスのチェックアウトを試行します。30 日の猶予期間内に追加のライセンスが使用可能にならない場合、この期間が終了すると、Replication Server はシャットダウンします。

『SySAM ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

## 製品エディションとライセンス・タイプ

Replication Server は、Enterprise Edition (EE) と Real-Time Loading Edition (RTLE) の 2 つの異なる製品エディションとしてリリースされました。これらは、異なるベースとオプション機能で構成されており、別々のライセンスが必要です。

**注意：**SPDC の他に、Replication Server Enterprise Edition (ベース Replication Server、Advanced Services Option、Data Assurance オプションなど) も SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) でのダウンロードやライセンス生成が可能です。

**表 2 : Enterprise Edition の機能とライセンス**

機能の種類	機能	説明	ライセンス
ベース	Replication Server	Advanced Services Option、ExpressConnect for Oracle、Real-Time Loading 以外の Replication Server の機能。	REP_SERVER

機能の種類	機能	説明	ライセンス
オプション	Advanced Services Option	Replication Server のパフォーマンス強化機能。次の機能強化があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• High Volume Adaptive Replication (HVAR)</li> <li>• データ・サーバ・インタフェース (DSI) 効率の向上</li> <li>• RepAgent エグゼキュータ・スレッドの効率の向上</li> <li>• ディストリビュータ・スレッドの読み込み効率の向上</li> <li>• メモリ割り付けの強化</li> <li>• キューのブロック・サイズの増加</li> <li>• マルチパス・レプリケーション</li> </ul>	REP_HVAR_ASE
	ExpressConnect for Oracle	Replication Server を Oracle に直接接続できるようにする。Replication Server Options 15.7.1 の製品マニュアルを参照。	REP_EC_ORA
	Data Assurance オプション	データ検証ツール。	『Replication Server Data Assurance オプション・インストール・ガイド』を参照。

表 3 : Real-Time Loading Edition の機能とライセンス

機能の種類	機能	説明	ライセンス
ベース	Replication Server	Advanced Services Option、ExpressConnect for Oracle、Real-Time Loading 以外の Replication Server の機能。	REP_SERVER
	Real-Time Loading (RTL)	Adaptive Server® および Oracle から Sybase® IQ への複写を可能にする。 <b>注意：</b> Real-Time Loading Edition を使用して Adaptive Server または Oracle に複写することはできません。	REP_RTL_IQ

機能の種類	機能	説明	ライセンス
	Advanced Services Option	Replication Server のパフォーマンス強化機能。次の機能強化があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• High Volume Adaptive Replication (HVAR)</li> <li>• データ・サーバ・インタフェース (DSI) 効率の向上</li> <li>• RepAgent エグゼキュータ・スレッドの効率の向上</li> <li>• ディストリビュータ・スレッドの読み込み効率の向上</li> <li>• メモリ割り付けの強化</li> <li>• キューのブロック・サイズの増加</li> </ul>	REP_HVAR_ASE
	Replication Agent for Oracle	プライマリ・データ・サーバとして Oracle に接続できる Replication Agent for Oracle を含む。	RTLE には Replication Server Options のライセンスが含まれる。

### **Sybase Control Center ライセンス**

Sybase Control Center (Replication Server、Replication Server Data Assurance オプションなど) で管理される製品の有料ライセンスをお持ちの場合、Sybase Control Center のライセンスは無料で提供されます。評価ライセンスも入手可能です。

ライセンスを取得する必要はありません。インストーラには次のライセンス・オプションがあります。

- [Sybase Control Center Suite のライセンス取得済みコピーのインストール] – Sybase Control Center で管理される製品の有料ライセンスをお持ちの場合は、このオプションをインストールします。永久 (期限なし) ライセンスの下に Sybase Control Center がインストールされます。
- [Sybase Control Center Suite の評価] – Sybase Control Center で管理される製品の有料ライセンスをお持ちでない場合、または Sybase Control Center の永久コピーをインストールしない場合は、このオプションを選択します。評価ライセンスは、30 日後に有効期限が切れます。

詳細については、『Sybase Control Center 3.2.6 Installation Guide』を参照してください。

**Replication Server と Sybase IQ InfoPrimer の統合ライセンス**

特別なライセンスの要件は Replication Server と Sybase IQ InfoPrimer の統合に適用されます。

**表 4 : Replication Server と Sybase IQ InfoPrimer の統合ライセンス**

製品	機能	説明	ライセンス
Replication Server	Real-Time Loading (RTL)	Adaptive Server から Sybase IQ へのレプリケーションを可能にします。 <u>注意： Real-Time Loading Edition を使用して Adaptive Server または Oracle に複写することはできません。</u>	REP_RTL_IQ
Sybase IQ InfoPrimer 15.3	Sybase IQ InfoPrimer	Adaptive Server からのデータの抽出およびロードと、Sybase IQ でのデータの変換に使用されます。	SY_INFOPRIMER_SERVER

**サブキャパシティ・ライセンス**

Sybase が提供するサブキャパシティ・ライセンスは、物理マシンで利用可能な CPU のサブセット上にある Sybase 製品をライセンスの対象とします。

プラットフォームのサポート

**表 5 : SySAM 仮想化サブキャパシティの互換性**

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
HP	nPar	HP IA 11.31	物理パーティション
	vPar		仮想パーティション
	Integrity Virtual Machines およびリソース・マネージャ		仮想マシン
	セキュア・リソース・パーティション		OS コンテナ
IBM	LPAR	AIX 6.1、AIX 7	仮想パーティション

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
	dLPAR		仮想パーティション
Oracle	動的システム・ドメイン	Solaris 10	物理パーティション
	Solaris コンテナ/ゾーン および Solaris リソース・マネージャ		OS パーティション
Intel、AMD	VMWare ESX Server ゲスト O/S : Windows、Linux、および Solaris x64  VMWare Workstation および VMWare Server は、VMWare ESX Server に含まれません。	VMWare ESX 3.5、 ESX 4.0 および ESX 4.1、 ゲスト OS : Windows 2008 R2、 Windows 7、Red Hat 5.6、 SuSE 11、Solaris x64	仮想マシン
	Xen、DomainU : Windows および Linux  Xen に Solaris x64 は含まれません。	Windows 2008 R2、 Windows 7、Red Hat 5.6、 および SuSe 11	仮想マシン

### Sybase サブキャパシティ・ライセンスの有効化

サブキャパシティ・ライセンスを有効にするには、事前に Sybase とのサブキャパシティ・ライセンス契約が必要になります。Sybase の他のライセンスと同様に、ライセンス・キーを生成する必要があります。具体的な手順については、『SySAM クイック・スタート・ガイド』を参照してください。

---

**注意：** ライセンス・サーバを最新の状態に保ってください。

インストール・メディアには最新の SySAM ライセンス・サーバのコピーが含まれますが、SySAM スタンドアロン・ライセンス・サーバの Web サイト (<http://www.sybase.com/sysam/server>) で定期的にライセンス・サーバの更新をチェックすることをおすすめします。

---

### 稼働条件

SySAM サブキャパシティ・ライセンスを使用するときは、インストール前に SYBASE\_SAM\_CAPACITY 環境変数を設定する必要があります。または、インストール後にライセンス・キーに環境変数をコピーすることもできます。

サブキャパシティのライセンスを使用する場合は、次のいずれかを実行します。

- SYBASE\_SAM\_CAPACITY 環境変数を設定してからインストーラを起動します。  
『SySAM ユーザーズ・ガイド』の「SySAM サブキャパシティの設定」で説明されている手順に従います。ただし、サブキャパシティ対応の Sybase 製品を起動するのではなく、インストーラを起動します。インストーラには、**sysamcap** ユーティリティが `sysam_utilities/bin` に含まれています。
- インストール時に [Sybase ソフトウェア資産管理ライセンス] ウィンドウで [ライセンス・キーなしでインストールを続行] を選択します。インストール後に、`installed_directory/SYSAM-2_0/licenses` ディレクトリにライセンス・キーをコピーします。`installed_directory` は、コンポーネントをインストールした場所です。

## システムの稼働条件

---

Replication Server のインストール先のサーバのシステム稼働条件とシステム・パッチを確認します。

### UNIX での Replication Server のシステム稼働条件

実行しているオペレーティング・システムがサポートされていることと、UNIX プラットフォーム版のサンプル Replication Server の設定と実行に十分な空き領域があることを確認します。

項目	稼働条件
RAM	512MB 以上の RAM。

項目	稼働条件
ディスク領域	<p>フル・インストールの場合、必要なディスク領域の合計は約 2GB です。</p> <p>必要なディスク領域：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Replication Server ソフトウェア、サポート・ファイル、ログ・ファイル用に 950MB。</li> <li>• Data Assurance (DA) オプションをインストールする場合は 350MB。</li> <li>• Replication Server のディスク・パーティションごとに 20MB の追加領域。ディスク・パーティションは、Sybase ソフトウェアと別のディスクに存在してもかまわない。</li> </ul> <p>下記のいずれかの領域：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Embedded Replication Server システム・データベース (ERSSD) を使用していない場合は、RSSD として機能する Adaptive Server Enterprise データベース用ディスク領域。システム稼働条件については、Adaptive Server Enterprise のマニュアルを参照。</li> <li>• ERSSD として機能する SQL Anywhere データベース用に 80MB。データベース・ディレクトリ、トランザクション・ログ・ディレクトリ、バックアップ・ディレクトリ用に合計 80MB。各ディレクトリをそれぞれ別のディスクに配置する。</li> </ul> <p>使用する複写システムのアプリケーションによっては、さらにディスク領域が必要になる場合がある。</p>



項目	稼働条件
オペレーティング・システム	<p>下記のいずれかの条件：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>HP-UX Itanium 11.31 (64 ビット版)</b> このインストーラには、<b>gzip</b> ユーティリティが必要です。\$PATH 環境変数に <b>gzip</b> へのパスが設定されていることを確認してください。</li> <li>• <b>IBM AIX (64 ビット版)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• AIX 6.1</li> <li>• AIX 7.1</li> </ul> <p>お使いの AIX のバージョンに必要な AIX 用 IBM XL C/C++ ランタイムと SMP ランタイム・ライブラリをインストールしてから Replication Server をインストールします。IBM AIX オペレーティング・システムのインストール・メディアからライブラリを取得します。これらのライブラリは、IBM AIX Web サイトから入手できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• IBM XL C/C++ ランタイム (AIX) は、Web サイトの「Latest updates for supported IBM C and C++ compilers」から入手できます。</li> <li>• SMP ランタイム・ライブラリ (AIX) は、Web サイトの「IBM XL C/C++ Enterprise Edition for AIX, Runtime Environment and Utilities」から入手できます。</li> </ul> <p>ライブラリがインストールされていることを確認するには、次のコマンドを発行します。</p> <pre>source \$SYBASE/SYBASE.csh cd \$SYBASE/\$SYBASE_REP/bin ldd ./repserver</pre> </li> <li>• <b>Linux x86-64 (64 ビット版)：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Red Hat Enterprise Linux 5.5 <ul style="list-style-type: none"> <li>• kernel — 2.6.18-194.el5 SMP</li> <li>• glibc — 2.5-49</li> </ul> </li> <li>• Red Hat Enterprise Linux 6.0 <ul style="list-style-type: none"> <li>• kernel — 2.6.32-71.el6.x86_64 SMP</li> <li>• glibc — 2.12-1.7.el6.x86_64</li> <li>• glibc — 2.12-1.7.el6.i686</li> </ul> </li> <li>• Red Hat Enterprise Linux 6.1 <ul style="list-style-type: none"> <li>• kernel — 2.6.32-131.0.15.el6.x86_64</li> <li>• glibc — 2.12-1.25.el6.x86_64</li> <li>• glibc — 2.12-1.25.el6.i686</li> </ul> </li> <li>• SuSE Linux Enterprise Server SLES 10、Service Pack 2 <ul style="list-style-type: none"> <li>• kernel — 2.6.16.60-0.21 SMP</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

項目	稼働条件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• glibc — 2.4-31.54</li> <li>• SuSE Linux Enterprise Server SLES 11               <ul style="list-style-type: none"> <li>• kernel — 2.6.27.19-5.1</li> <li>• glibc — 2.9-13.2</li> </ul> </li> <li>• SuSE Linux Enterprise Server SLES 11、Service Pack 1               <ul style="list-style-type: none"> <li>• kernel — 2.6.32.12-0.7</li> <li>• glibc — 2.11.1-0.17.4</li> </ul> </li> <li>• Linux on IBM p-Series (Linux on POWER) (64 ビット版)               <ul style="list-style-type: none"> <li>• Red Hat Enterprise Linux 5.5                   <ul style="list-style-type: none"> <li>• kernel — 2.6.18-194.el5 SMP</li> <li>• glibc — 2.5-49</li> </ul> </li> <li>• Red Hat Enterprise Linux 6.0                   <ul style="list-style-type: none"> <li>• kernel — 2.6.32-71.el6.ppc64 SMP</li> <li>• glibc — 2.12-1.7.el6.ppc64</li> <li>• glibc — 2.12-1.7.el6.ppc</li> </ul> </li> <li>• SuSE Linux Enterprise Server SLES 10、Service Pack 2                   <ul style="list-style-type: none"> <li>• kernel — 2.6.16.60-0.21-ppc64 SMP</li> <li>• glibc — 2.4-31.54</li> </ul> </li> <li>• SuSE Linux Enterprise Server SLES 11、Service Pack 1                   <ul style="list-style-type: none"> <li>• kernel — 2.6.32.12-0.7-ppc64 SMP</li> <li>• glibc — 2.11.1-0.17.4</li> </ul> </li> </ul> <p>IBM XL C コンパイラのランタイム・ライブラリをインストールしてから、Replication Server をインストールしてください。IBM XL C ランタイム・パッケージがインストールされていることを確認するには、次のコマンドを発行します。</p> <pre>vacpp.rte-10.1.0-0</pre> <p>「package vacpp.rte-10.1.0-0 is not installed」というメッセージが表示された場合、IBM Web サイト (<a href="https://www-304.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24021253">https://www-304.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24021253</a>) から IBM XL C version 10.1 ランタイム実行プログラムをダウンロードしてください。必ず、ダウンロード用の表の中から自分のオペレーティング・システム用の適切なインストール・パッケージを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Solaris (64 ビット版)               <ul style="list-style-type: none"> <li>• Solaris 10 SPARC</li> </ul> </li> </ul> </li></ul>

項目	稼働条件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Solaris 10 x64</li> </ul>
サポートする プロトコル	TCP/IP

### オペレーティング・システム・パッチの要件

使用しているオペレーティング・システムに最新のパッチがインストールされていることを確認します。

Linux の場合 – Linux カーネル・バージョン 2.4.x を提供する Linux のディストリビュータから、必要なすべてのライブラリを入手できます。ライブラリが古いまたは見つからないという警告メッセージが表示された場合は、Linux のディストリビュータの Web サイトから必要なライブラリをダウンロードしてください。

使用しているシステムで推奨されるパッチについては、オペレーティング・システムのプロバイダに問い合わせるか、使用しているプラットフォームの『Replication Server リリース・ノート』を確認してください。

使用しているオペレーティング・システムにパッチが必要な場合は、パッチをインストールしてから Replication Server コンポーネントをインストールしてください。

---

**注意：** 使用しているオペレーティング・システム用に提示されているバージョンより古いパッチは使用しないでください。新しいパッチがある場合は、最新のパッチを使用してください。

---

### UNIX プラットフォームでのオペレーティング・システムのパッチ・レベルの確認

UNIX プラットフォームで、現在インストールされているパッチを確認し、オペレーティング・システムのバージョン・レベルを表示するには、次のように入力します。

- HP-UX の場合、次のように入力します。

```
/usr/sbin/swlist -l patch
```

- IBM AIX の場合、次のように入力します。

```
/usr/sbin/instfix -a
```

- Solaris の場合、次のように入力します。

```
showrev -p
```

- Linux の場合、次のように入力します。

```
rpm -q -a
```

## インストール・ディレクトリ構造

---

インストールされるコンポーネントに使用するインストール・ディレクトリ、サブディレクトリ階層、命名規則の概要について説明します。

Replication Server のほとんどのコンポーネントは、実行プログラム、インストール・ツールと設定ツール、コンポーネントに必要な表示関連ファイルとともに、独自のサブディレクトリにインストールされます。サブディレクトリの命名規則では、REP (Replication Server の場合) や OCS (Open Client™ および Open Server™ の場合) などのコンポーネント識別子と、ソフトウェア・リリース・バージョンが含まれます。

Replication Server 15.7.1 には、新しいバージョンの Replication Server と多数のサポート・コンポーネントが含まれています。他の Sybase 製品には、同じコンポーネントの旧バージョンが含まれていることがあります。Replication Server 15.7.1 は、このような既存の製品と同じディレクトリにインストールできます。

ただし、他の Sybase 製品を使用している場合に Replication Server 15.7.1 をインストールすると、一部の環境変数を変更されることがあります。この場合、個々の製品が動作するように、環境変数を再設定してください。

---

**注意：** Replication Server 15.7.1 は、Adaptive Server Enterprise と Open Client および Open Server バージョン 15.5 以降と同じディレクトリにインストールできます。

Replication Server 15.7.1 は、InstallShield インストーラを使用してインストールされている古い Sybase 製品と同じディレクトリにインストールしている場合は、アンインストールしないことをおすすめします。アンインストールした場合、製品が正しく動作しなくなることがあります。

---

Replication Server 15.7.1 は、同じ \$SYBASE ディレクトリの Replication Server 12.6 以降の上にインストールできます。これによって、SAMPLE\_RS (サンプル Replication Server) の interfaces ファイルに重複するエントリが作成されます。rs\_init によってこの重複エントリに関する警告が表示され、interfaces ファイルで最初に見つかった SAMPLE\_RS のインスタンスが使用されます。『Replication Server 設定ガイド』の「既存のディレクトリを使用したアップグレードとダウングレード」を参照してください。

### 制約

Replication Server バージョン 15.7.1 を次の Sybase 製品の上にインストールしないでください。

- Replication Server バージョン 12.5 以前

- Adaptive Server バージョン 12.5.0.x またはそれ以前
- Adaptive Server バージョン 12.x (64 ビット版)
- Open Client および Open Server バージョン 12.5.0 またはそれ以前
- OpenSwitch™ バージョン 12.5 またはそれ以前
- DirectConnect™ バージョン 12.5 以前

上記の旧バージョンの製品の上に Replication Server バージョン 15.6 をインストールすると、これらの製品の機能が損なわれ、他の Sybase 製品にも悪影響を及ぼす可能性があります。このようなインストールを実行した場合、アンインストールによって元の状態に戻すことはできません。アンインストールすると、Replication Server バージョン 15.7.1 によって更新された旧 Sybase 製品の必須コンポーネントが削除される可能性があるためです。したがって、Replication Server バージョン 15.7.1 をインストールする前に、現在のディレクトリをバックアップしておくことをおすすめします。

Adaptive Server バージョン 15.0.x を格納する既存の Sybase インストール・ディレクトリに Replication Server 15.7.1 をインストールする場合、新しいファイルの上に古い locales または charset ファイルをインストールするかどうかを確認するメッセージが表示されることがあります。これらのファイルの最新バージョンを保持するには、[すべていいえ] を選択します。

共有コンポーネントは、コンポーネントのサブディレクトリとは別のサブディレクトリにインストールされます。たとえば、Replication Server のサブディレクトリは \$SYBASE/REP-15\_5 です。ただし、Open Client は \$SYBASE/OCS-15\_0 にインストールされます。SQL Anywhere は Replication Server 専用であるため、例外として \$SYBASE/REP-15\_5/ASA12 にインストールされます。その結果、このディレクトリ構造では、既存の \$SYBASE ディレクトリ構造へのインストールが可能であるだけでなく、特定のコンポーネントの複数バージョンをインストールして使用できます。

---

**ヒント：** \$SYBASE サブディレクトリを参照するカスタム・アプリケーションまたはカスタム・スクリプトがすでにインストールされている場合は、新しいインストール・ディレクトリ構造が反映されるように、それらのアプリケーションまたはスクリプトを変更してください。

---

内部処理に関する情報を取得して表示するための診断サーバ (REP-15\_5/bin/repserver.diag) がインストールされます。このプログラムは削除しないでください。Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタでは、Replication Server の問題を診断および解決するために、このプログラムを使用するよう願います。

---

**注意：** また、実際のディレクトリ構造は、インストールするコンポーネントによって、この内容と異なる場合があります。

---

## UNIX プラットフォームでの独自のディレクトリへの Replication Server のインストール

UNIX プラットフォームでは、Sybase 環境変数に影響を与えることなく、独自のディレクトリに Replication Server をインストールできます。

---

**注意：** Replication Server を独自のインストール・ディレクトリにインストールした場合、2つの `interfaces` ファイルを管理する必要があります。1つは Replication Server コンポーネント用であり、もう1つは他の Sybase アプリケーション用です。

---

**参照：**

- UNIX での環境変数 (46 ページ)
- GUI モードでの Replication Server のインストール (32 ページ)

## インストール・ディレクトリの内容とレイアウト

使用しているマシン上の Sybase インストール・ディレクトリにインストールされた Replication Server コンポーネントのリストを確認します。

\$\$SYBASE 内：

- `charsets` – 文字セットとソート順。
- `collate` – Unicode
- `config` – 設定ファイル (`mnemonic.dat`、`objectid.dat`、`trusted.txt` など)。
- `interfaces` – UNIX 用 `interfaces` ファイル。
- `locales` – Open Client および Open Server 用のローカライゼーション・ファイルと、Replication Server が使用するその他のコンポーネント。Replication Server 固有のローカライゼーション・ファイルは含まれない。
- `log` – インストール・プロセスのログ・ファイル。
- `OCS-15_0` – Open Client および Open Server のディレクトリとファイル (`bin`、`config`、`devlib`、`include`、`lib`、`lib3p`、`sample`、`scripts`、`sybhelp`、`xappdefaults` など)。
- `REP-15_5` – Replication Server 15.7.1 のファイル (`ASA12`、`bin`、`certificates`、`devlib64` (64 ビット・プラットフォーム)、`doc`、`init`、`install`、`lib64` (64 ビット・プラットフォーム)、`lib3p64` (64 ビット・プラットフォーム)、`locales`、`REFIMP-01_0`、`samp_repserver`、`scripts`、`sample`、`sysam`、`ThirdPartyLegal`、`upgrade` など)。

- Sybase\_Install\_Registry – Sybase 製品のレジストリ情報を保管するために使用され、インストールおよびアンインストールしたソフトウェアのバージョンが記録される。si\_reg.xml ファイルは \$SYBASE/Sybase\_Install\_Registry ディレクトリにインストールされる。

---

**警告！** si\_reg.xml を変更または削除すると、今回のインストール作業の後に Sybase ソフトウェアをインストールまたはアンインストールするときに、インストールしたコンポーネントのバージョンをインストーラで正確に管理できなくなります。

---

- sybuninstall – アンインストーラで Replication Server ソフトウェアのアンインストールに使用されるファイル。
- SYSAM-2\_0 – ソフトウェアの License Manager ファイル (bin、licenses、locales、log)。Linux には META-INF という License Manager ファイルもある。
- SYBASE.csh、SYBASE.sh、SYBASE.env – 環境変数の再設定に使用する、インストーラによって作成されるファイル。

## インストールの設定オプション

---

実際の設定に該当する Replication Server インストール・オプションを決定します。[標準] がデフォルト・オプションです。

Replication Server **setup** プログラムには、次のインストール・オプションがあります。

- 標準 (デフォルト) – ほとんどのユーザにとって役立つと考えられる Replication Server コンポーネントがインストールされます。このインストールでは、英語の言語モジュールと、そのモジュールでサポートされている文字セットだけがインストールされます。インストールが開始される前に、インストールされるコンポーネントのリストと必要な総ディスク領域が表示されます。
- フル – サポートされるすべての言語モジュールを含むすべての Replication Server コンポーネントがインストール・メディアからインストールされます。インストールが開始される前に、インストールされるコンポーネントのリストと必要な総ディスク領域が表示されます。
- カスタム – インストールするコンポーネントを選択できます。詳しい知識を持つユーザ向けです。

---

**注意：** 選択した他のコンポーネントを実行するために特定のコンポーネントが必要な場合は、それらのコンポーネントが自動的にインストールされます。

---

## インストール・モード

---

使用するインストール・モードを決定します。GUI モードがデフォルト・モードです。

次のモードのいずれかを使用して、Replication Server をインストールできます。

- グラフィカル・ユーザ・インタフェース (GUI) – 対話型ユーザ・モードでコンポーネントをインストールできます。
- コンソール – コマンド・ライン環境でコンポーネントをインストールできます。
- 応答ファイル – 応答ファイルを記録または作成できます。応答ファイルを使用すると、次の 2 とおりの方法で Replication Server をインストールできます。
  - サイレント – インストールの各設定を応答ファイルに保存し、ユーザによる操作を必要としないで製品をインストールします。これは、複数のマシンに同一のインストール作業を行う場合に便利です。
  - 応答ファイルを使用した対話型インストール – 対話形式でインストールしますが、すべての応答がすでに入力されているため、すべてのデフォルト値を受け入れ、応答ファイル内の応答に従って Replication Server をインストールできます。この方法は、一部のサイトで Replication Server を非グラフィカル・ユーザ・インタフェース環境でインストールしており、いくつかの変更を加えて標準インストールを実行する必要がある場合に便利です。

## 管理作業の実行

---

管理作業は、インストール・プロセスを開始する前に完了しておく必要があります。

1. 現在の複製システムをバックアップします。
2. “sybase” ユーザ・アカウントを作成し、このアカウントに read、write、execute の各パーミッションを付与します。
3. Sybase インストール・ディレクトリとなるロケーションに、十分な領域があることを確認します。
4. ネットワーク・ソフトウェアが設定されていることを確認します。  
ネットワークに接続されていないマシンに Replication Server と Sybase クライアント・アプリケーションがインストールされる場合でも、Sybase のソフトウェアではネットワーク・ソフトウェアが使用されます。
5. RSSD を使用している場合は、Adaptive Server Enterprise が実行中であることを確認します。



## **Sybase ユーザ・アカウントの作成**

所有権と権限が一貫した状態で Sybase 製品ファイルとディレクトリが作成されるように、Sybase ユーザ・アカウントを作成します。

インストール、設定、アップグレードのすべての作業は、1 人のユーザ (通常は、読み込み、書き込み、実行の権限を持つ Sybase システム管理者) が行うする必要があります。

1. Sybase システム管理者アカウントを作成するには、既存のアカウントを選択するか、新しいアカウントを作成して、ユーザ ID、グループ ID、パスワードをアカウントに割り当てます。

このアカウントは、“sybase” ユーザ・アカウントと呼ばれることもあります。新しいユーザ・アカウントを作成する方法については、使用しているオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

他の Sybase ソフトウェアがすでにインストールされている場合、“sybase” ユーザはすでに存在します。

2. このアカウントを使用してコンピュータにログインできることを確認してください。

## インストールの計画

# Replication Server のインストール

選択した方法を使用して Replication Server をインストールします。

## 前提条件

インストール計画の作業を完了します。

## 手順

1. インストール方法を選択します。
  - GUI モード (推奨)
  - コンソール・モード
  - 応答ファイル
2. 選択した方法の手順に従います。
3. インストール後の手順を実行します。

## インストール・メディアのマウント

---

CD または DVD からインストールする場合は、インストール・メディアをマウントします。

**mount** コマンドのロケーションはサイトごとに異なるため、以下に示すロケーションとは異なる場合があります。表示されているパスを使用しても適切なドライブにインストール・メディアをマウントできない場合は、ご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

- HP-UX の場合

ログアウトしてから “root” 権限で再びログインし、次のコマンドを発行します。

```
mount -F cdfs -o ro device_name /mnt/cdrom
```

続いて、“root” 権限でログアウトし、“sybase” 権限で再びログインします。

- IBM AIX の場合

“sybase” としてログインし、次のコマンドを発行します。

```
mount -v 'cdrfs' -r device_name /mnt/cdrom
```

- Solaris の場合

オペレーティング・システムによって、CD または DVD は自動的にマウントされます。“sybase” としてログインします。CD または DVD の読み込みエラーが

発生した場合は、オペレーティング・システムのカーネルをチェックして、ISO 9660 オプションがオンになっていることを確認してください。システムに Sybase CD または DVD がすでにインストールされている場合、# 記号は、インストール・プロセスの妨げとなります。現在の CD または DVD をインストールする前に、次のいずれかを実行してください。

- システムを再起動する。または、
- CD または DVD を取り出す。/vol/dsk にある *Volume Label* ファイルを削除し、CD または DVD を再度挿入する。
- Linux および Linux on POWER の場合  
“sybase” としてログインし、次のコマンドを発行します。

```
# mount -t iso9660 /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

### 参照：

- GUI モードでの Replication Server のインストール (32 ページ)

## GUI モードでの Replication Server のインストール

---

インストーラは、対象ディレクトリを作成し、選択したコンポーネントをすべてそのディレクトリにインストールします。

### 前提条件

Replication Server をインストールするドライブに、コンポーネントをインストールできるだけの十分な空きディスク領域があることを確認します。さらに、インストール・プログラム用に 100MB 以上の空きディスク領域があることも確認します。

### 手順

1. Replication Server のインストール・メディアを適切なドライブに挿入するか、Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) または SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) から Replication Server インストール・イメージをダウンロードして抽出します。
2. SPDC または SMP から製品をダウンロードした場合は、インストール・イメージを抽出したディレクトリに移動してから、インストーラを起動します。

```
./setup.bin
```

CD または DVD からインストールする場合は、CD または DVD をマウントし、インストーラを起動します。

- HP-UX の場合

```
cd /cdrom
./setup.bin
```

- IBM AIX の場合

```
cd /device_name
./setup.bin
```

- Solaris の場合

```
cd /cdrom/Volume Label
./setup.bin
```

- Linux および Linux on POWER の場合

```
cd /mnt/cdrom
./setup.bin
```

構文の説明は次のとおりです。

- *cdrom* および */mnt/cdrom* は、CD または DVD ドライブをマウントしたときに指定したディレクトリ (マウント・ポイント) です。
- *device\_name* は、CD または DVD デバイス・ドライブの名前です。
- *setup.bin* は、Replication Server をインストールする実行ファイル名です。

テンポラリー・ディスク領域のディレクトリでディスク領域が不足している場合は、環境変数 *IATEMPDIR* を *tmp\_dir* に設定してから、再度実行します。

*tmp\_dir* は、インストール・プログラムがテンポラリー・インストール・ファイルを書き込むテンポラリー・ディレクトリの名前です。*tmp\_dir* を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。

3. [開始画面] ウィンドウで、[次へ] をクリックします。
4. Replication Server をインストールする場所を指定します。

オプション	説明
[Choose] をクリックします。	インストール・ディレクトリを選択します。表示されたウィンドウを参照し、ディレクトリを選択します。
新しいディレクトリ・パスを入力します。	新しいディレクトリを作成します。
[Restore Default Folder] をクリックします。	入力したディレクトリを使用しないでデフォルトのディレクトリに戻します。

- 選択したインストール・ディレクトリが存在しない場合は、[はい] をクリックしてインストール・ディレクトリを作成します。

## Replication Server のインストール

- 選択したインストール・ディレクトリが存在し、すでに Replication Server のインストールが含まれている場合は、旧バージョンを上書きしようとしているという警告が表示されます。[次へ] をクリックします。

### 5. インストールの種類を選択します。

オプション	説明
[標準]	デフォルト・コンポーネントがインストールされます。一般的なユーザ向けです。
[フル]	サポートされるすべての言語モジュールを含むすべての Replication Server コンポーネントがインストールされます。
[カスタム]	インストールするコンポーネントを選択できます。選択したコンポーネントを実行するために一部のコンポーネントが必要な場合は、それらのコンポーネントが自動的にインストールされます。

[次へ] をクリックします。

6. 地域を選択し、ライセンス契約に同意したら、[次へ] をクリックします。
7. [Sybase Software Asset Management License Server] ウィンドウで、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	選択内容
[ライセンス・キーを指定]	<p>次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [検索] をクリックしてライセンス・ファイルを選択します。</li> <li>• 複数のライセンス・ファイルを選択するには、[Shift] キーを押したままクリックするか、[Ctrl] キーを押したままクリックします。ライセンス・ウィンドウ枠にライセンス情報が表示されます。</li> <li>• ライセンス・ウィンドウ枠にライセンス情報を直接コピーして貼り付けます。</li> </ul> <p>[次へ] をクリックします。</p> <p>サブド・ライセンス・キーを指定する場合は、新しい SySAM ライセンス・サーバをインストールするようプロンプトが表示されます。次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [次へ] – 新しい SySAM ライセンス・サーバをインストールします。インストールの指示に従います。</li> <li>• [前へ] – 同一のホストに既存の SySAM ライセンス・サーバが存在する場合、[以前に配備したライセンス・サーバを使用] を選択します。</li> </ul>
[以前に配備したライセンス・サーバを使用]	<p>次を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ライセンス・サーバが稼働しているマシンのホスト名。</li> <li>• ポート番号 (使用しているポート番号がデフォルトではない場合)</li> </ul> <p>[次へ] をクリックします。</p>
[ライセンス・キーなしでインストールを続行]	<p>Replication Server のいずれのコンポーネントについてもライセンスを所有していない場合はこのオプションを選択し、[次へ] をクリックして続行します。</p> <p>30 日の猶予期間中は、ライセンスなしでも Replication Server コンポーネントをインストールして使用できます。猶予期間後も継続して使用する場合は、有効なライセンスを取得し、Replication Server License Installer を使用してこれらのライセンスをインストールします。</p>

**sysadmin lmconfig** を使用して、Replication Server でライセンスの管理に関連する情報を構成して示します。『Replication Server リファレンス・マニュアル』の「Replication Server コマンド」の「**sysadmin lmconfig**」を参照してください。

8. 必要に応じて、SySAM 電子メール構成を設定します。[次へ] をクリックします。
9. インストールの概要ウィンドウに、選択した内容が表示されます。内容を確認し、[インストール] をクリックします。
10. [サンプル Replication Server の起動] ウィンドウで、次のいずれかを選択します。

オプション	説明
[Yes]	<p>サンプル Replication Server を設定し、起動する場合。サンプル Replication Server の設定情報が表示されます。この情報を記録します。</p> <p>パスワード・フィールドには最大 30 バイト入力でき、状況に応じて次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• シングルバイト文字 – 6 ～ 30 文字を入力します。</li> <li>• ダブルバイト文字 – 3 ～ 15 文字を入力します。</li> </ul>
[No]	<p>インストールを完了する場合。インストールした後に、フル機能の Replication Server を手動で構成し、サンプルの Replication Server を起動できます。</p>

[次へ] をクリックします。

11. インストールが完了したら、[完了] をクリックします。

### 次のステップ

インストールが有効であり、正しく実行されたことを確認します。

- \$SYBASE/log ディレクトリ内にあるログ・ファイルを表示し、エラーがないかどうかを確認します。有効なインストールの場合は、“ERROR” という単語が含まれていません。
- \$SYBASE/Sybase\_Install\_Registry ディレクトリ内の si\_reg.xml ファイルの日付が現在のインストールの日付に反映されていることを確認します。

### 参照：

- インストール後の作業 (43 ページ)
- runserver ファイル (47 ページ)
- インストール・メディアのマウント (31 ページ)



## Replication Server Data Assurance オプションのインストール

Replication Server Data Assurance (DA) オプションは、Replication Server の別途ライセンス製品として使用できます。インストール・イメージを抽出した **setup** プログラムを取得します。

詳細については、『Replication Server Data Assurance オプション・インストール・ガイド』を参照してください。

## コンソール・モードでの Replication Server のインストール

インタフェースにウィンドウ操作を使用しない場合やカスタム・インストール・スクリプトを作成する場合は、コマンド・ライン・インストールを選択します。

### 前提条件

インストーラをコンソール・モードで起動します。インストーラが自動的に起動する場合は、[キャンセル]をクリックして GUI インストールをキャンセルし、端末またはコンソールから **setup** プログラムを起動します。

### 手順

コンポーネントを対話型テキスト・モードでインストールする手順は、**setup -i console** を使用してコマンド・ラインからインストーラを実行する点と、テキストを入力してオプションを指定する点を除き、GUI モードの手順と同じです。

1. コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
./setup.bin -i console
```

2. 表示されるメッセージに従って、Replication Server をインストールします。出力が端末ウィンドウに書き込まれるので、キーボードを使用して応答を入力します。

### 参照：

- GUI モードでの Replication Server のインストール (32 ページ)

## 応答ファイルを使用した Replication Server のインストール

通常、企業全体で複数のシステムを更新する場合は、無人(サイレント)インストールを実行します。

サイレント(無人)インストールを実行するには、インストーラを実行し、指定したインストール設定が含まれる応答ファイルを指定します。

## 応答ファイルの作成

インストール時の応答を応答ファイルに記録します。この応答ファイルは編集可能なテキスト・ファイルであり、今後のインストールで使用する前に応答を変更できます。

GUI またはコンソール・モードでインストールするときに、`-r` コマンド・ライン引数を指定することで、インストール・ウィザードのプロンプトへの応答が記録され、インストール・ウィザードの終了時に応答ファイルが作成されます。

インストール時に応答ファイルを生成するには、次のコマンドを入力します。

```
./setup.bin -r responseFileName
```

ここで、`responseFileName` は応答ファイル用に選択するファイル名であり応答ファイルの名前を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。次に例を示します。

```
/home/sybase/REP/ResponseFile.txt
```

## 応答ファイルを使用した GUI モードでのインストール

通常、企業全体で複数のシステムを更新する場合は、無人 (サイレント) インストールを実行します。

### 前提条件

インストール応答ファイルを作成します。

応答ファイルを使用した対話型インストールでは、応答ファイルによって指定されたデフォルト値を受け入れることも、別の値を入力することもできます。これは、類似はしているものの設定が異なる Replication Server の複数のインスタンスをインストールする場合に役立ちます。

### 手順

応答ファイルを使用して GUI インストールを実行するには、次のコマンドを実行します。

```
./setup.bin -f responseFileName
```

`responseFileName` は選択したインストール・オプションを含むファイル名です。選択した 応答ファイルの名前を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。

### 参照：

- コマンド・ライン・オプション (40 ページ)
- 応答ファイルの作成 (38 ページ)
- GUI モードでの Replication Server のインストール (32 ページ)

## サイレント・モードでのインストール

通常、企業全体で複数のシステムを更新する場合は、無人 (サイレント) インストールを実行します。

### 前提条件

インストール応答ファイルを作成します。

サイレント (無人) インストールでは、ユーザによる操作は伴いません。また、すべてのインストール設定情報は、応答ファイルから取得されます。これは、複数の同一インストールを行う場合、またはインストールを完全に自動化する場合に役立ちます。

### 手順

サイレント・モードでインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
./setup.bin -f responseFileName -i silent  
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

構文の説明は次のとおりです。

- *responseFileName* – 選択したインストール・オプションを含むファイル名の絶対パス。
- **-D** – Sybase ライセンス契約の内容に同意することを指定する。

GUI 画面がないことを除けば、インストーラの動作はすべて同じです。サイレント・モードのインストール結果は、GUI モードで同じ応答を行った場合とまったく同じになります。

---

**注意：**サイレント・モードでのインストール時に、Sybase ライセンス契約に同意する必要があります。次のいずれかの方法を使用できます。

- オプション `-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true` をコマンド・ライン引数に含める。
  - 応答ファイルを編集して、プロパティ `AGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true` を含める。
- 

### 参照：

- コマンド・ライン・オプション (40 ページ)
- 応答ファイルの作成 (38 ページ)
- GUI モードでの Replication Server のインストール (32 ページ)

## インストール時に発生する問題のトラブルシューティング

インストール時に発生した問題をトラブルシューティングするには、インストーラをデバッグ・モードに設定します。

インストーラを実行する前に、環境変数 `LAX_DEBUG` を `true` に設定します。インストーラによって、インストーラの問題のデバッグに役立つ追加の詳細なインストール情報が生成されます。

**ヒント：** インストール中にエラーが発生した場合は、インストール・ログ・ファイルでインストール・プロセスの記録を確認してください。ログ・ファイルは、`$SYBASE/log` にあります。

マシンに Sybase 製品を初めてインストールした場合は、インストーラによって Sybase インストール・ディレクトリが作成されます。このディレクトリには、すべての Sybase 製品のサポート・ファイルがあります。

## コマンド・ライン・オプション

コンソール・モードでの Replication Server のインストールまたはアンインストールのためのオプションです。

オプション	目的
<code>-i swing</code>	GUI モードを使用する。
<code>-i console</code>	コンソール <b>interface</b> モードを使用する。このモードでは、インストール中のメッセージは Java コンソールに表示され、ウィザードはコンソール・モードで実行される。
<code>-i silent</code>	製品をサイレント・モードでインストールまたはアンインストールする。インストールまたはアンインストールはユーザとの対話なしで実行される。
<code>-D</code>	カスタム変数およびプロパティを渡す。たとえば、インストーラの実行時にデフォルトのインストール・ディレクトリを上書きするには、次のように入力する。 <code>install_launcher_name</code> <code>-DUSER_INSTALL_DIR=/sybase</code>
<code>-r</code>	応答ファイルと参照を生成する。
<code>-f</code>	応答ファイルを参照する。
<code>-l</code>	インストーラのロケールを設定する。

オプション	目的
-?	インストーラのヘルプを表示する。



## インストール後の作業

Replication Server をインストールした後、サイトに必要なインストール後の作業を実行します。

詳細については、『Replication Server 設定ガイド UNIX 版』を参照してください。

### ログ・ファイル

---

ログ・ファイルに格納された Replication Server の設定情報を確認します。

- Replication Server インストーラのエラー・ログ・ファイル：  
\$SYBASE/log
- サンプル Replication Server のエラー・ログ：  
\$SYBASE/REP-15\_5/samp\_repserver/SAMPLE\_RS.log
- サンプル Replication Server SQL Anywhere のエラー・ログ：  
\$SYBASE/REP-15\_5/samp\_repserver/errorlog/
- **rs\_init** ログ・ファイル：  
\$SYBASE/REP-15\_5/init/logs/logmddd.xxx  
例：\$SYBASE/REP-15\_5/init/logs/log1106.001
- Replication Server ログ・ファイル：  
\$SYBASE/REP-15\_5/install/rs\_name.log  
例：\$SYBASE/REP-15\_5/install/REP\_redtail.log

### RSSD 用 Adaptive Server

---

Adaptive Server に格納されている RSSD を起動します。

Adaptive Server Enterprise に格納されている RSSD を使用するには、Adaptive Server Enterprise データベースをインストールします (まだインストールされていない場合)。使用しているプラットフォームの『Adaptive Server Enterprise インストール・ガイド』を参照してください。

インストールが成功したら、Adaptive Server Enterprise を起動します。使用しているプラットフォームの『Adaptive Server Enterprise 設定ガイド』を参照してください。

---

**注意：** Adaptive Server Enterprise をアップグレードする予定であり、すでにレプリケート・データベースがある場合は、使用しているプラットフォームに対応した『Adaptive Server Enterprise インストール・ガイド』を参照してください。

---

## サンプル Replication Server の設定

---

インストール時にサンプル Replication Server を設定しなかった場合も、インストーラによって作成されたリソース・ファイルを使用して、サンプル Replication Server を設定し、起動できます。

インストール時に、サンプル Replication Server を設定および起動するよう求めるプロンプトが表示されます。ユーザの選択内容にかかわらず、インストーラによってサンプル Replication Server 用のリソース・ファイル `$SYBASE/REP-15_5/samp_repserver/SAMPLE_RS.res` が作成され、`interfaces` ファイルが更新されます。サンプル Replication Server をインストール後に設定および起動するには、このリソース・ファイルを使用します。サンプル Replication Server のリソース・ファイルによって ERSSD が作成されます。

コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
cd $SYBASE/REP-15_5/samp_repserver
./rs_init-SAMPLE_RS.sh
```

このスクリプトの `rs_init` ユーティリティによって、コマンドが実行時に表示され、出力がログに書き込まれます。

サンプル Replication Server の設定および起動中にエラーが発生した場合は、ログ・ファイル `$SYBASE/REP-15_5/init/logs/logmdd.xxx`、を確認してください。

- *mm* – 月
- *dd* – 日
- *xxx* – その日のログの該当するインスタンス番号

サンプル Replication Server に関連するすべてのファイルとログは、`$SYBASE/REP-15_5/samp_repserver` ディレクトリにあります。

表 6 : サンプル Replication Server の設定情報

サンプル Replication Server の項目	定義
名前	<code>SAMPLE_RS</code>
ポート	11752



サンプル Replication Server の項目	定義
ユーザ名	<i>sa</i>
パスワード	<p><i>SAMPLE_RS</i> の <i>sa</i> ユーザ・パスワード。</p> <p>パスワード・フィールドには最大 30 バイト入力でき、状況に応じて次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• シングルバイト文字 - 6 ~ 30 文字を入力します。</li> <li>• ダブルバイト文字 - 3 ~ 15 文字を入力します。</li> </ul>
ERSSD サーバ名	<i>SAMPLE_RS_ERSSD</i>
ERSSD サーバ・ポート	11751
ERSSD ユーザ名	<i>SAMPLE_RS_RSSD_prim</i>
ERSSD パスワード	<i>SAMPLE_RS</i> のパスワードと同じ

『Replication Server 設定ガイド UNIX 版』の「rs\_init による Replication Server の設定とデータベースの追加」を参照してください。

## interfaces ファイルのサーバ・エントリ

**dsedit** ユーティリティを使用してネットワーク接続情報を修正します。

プライマリ Adaptive Server またはレプリケート Adaptive Server のいずれかが Replication Server のコンピュータ上にない場合、Replication Server の interfaces ファイルのデフォルトのホスト名 "localhost" を実際のサーバ名に変更する必要があります。interfaces ファイルを更新するには、**dsedit** を使用します。

**dsedit** を使用すると、interfaces ファイルに保存されたネットワーク接続情報を作成および修正できます。このユーティリティは \$SYBASE/\$SYBASE\_OCS/bin にあります。

**ヒント**： 使用しているシステムに X-Windows がインストールされていない場合、interfaces ファイルのサーバ・エントリの設定には **dscp** を使用します。このユーティリティは \$SYBASE/\$SYBASE\_OCS/bin にあります。

詳細については、『ASE ユーティリティ・ガイド』の「dscp の使用」を参照してください。

SYBASE.csh または SYBASE.sh を読み込んで、必要な環境変数を設定してから、**dsedit** を実行します。

詳細については、『ASE ユーティリティ・ガイド』の「dsedit の使用」を参照してください。

## UNIX での環境変数

Replication Server インストーラでは、必要なシステム環境変数 (PATH など) と、新しくインストールした Sybase ソフトウェアによって使用されるその他の環境変数が自動的に設定されます。

環境変数は次のファイルで定義されます。

- \$SYBASE/SYBASE.sh
- \$SYBASE/SYBASE.csh
- \$SYBASE/SYBASE.env

Replication Server インストーラの終了後、環境変数を再設定することが必要になる場合があります。たとえば、Sybase 管理者以外のユーザがソフトウェアを使用する必要がある場合です。

これらの環境変数を設定するには、次のいずれかを実行します。

- ソース SYBASE.sh (Bourne、Korn、または BASH シェル) または SYBASE.csh (C シェル) を読み込み、コンポーネントの環境変数を現在のセッションに合わせてその場で更新してから、コンポーネントを呼び出す。
- シェル・ファイルの環境変数値を更新して、コンポーネントの環境変数を永続的に変更する。

環境変数	説明
<ul style="list-style-type: none"><li>• HP-UX Itanium の場合 \$LD_LIBRARY_PATH \$SHLIB_PATH</li><li>• Linux、Linux on POWER (IBM pSeries) の場合 \$LD_LIBRARY_PATH</li><li>• Solaris の場合 \$LD_LIBRARY_PATH \$LD_LIBRARY_PATH_64</li><li>• IBM AIX の場合 \$LIBPATH</li></ul>	Open Client/Server ランタイム共有ライブラリへのサブディレクトリ・パス

環境変数	説明
\$SPATH	Replication Server の実行に必要なディレクトリ (Replication Server 実行プログラムや OCS ライブラリなど) を含む
\$\$SYBASE	すべての Sybase 製品がインストールされるホーム・ディレクトリ
\$\$SYBASE_OCS	Open Client ファイルへのサブディレクトリ・パス
\$\$SYBASE_REP	Replication Server へのサブディレクトリ・パス

## runserver ファイル

---

runserver ファイルは、Replication Server を起動するために必要なコマンド・ラインを持つ実行可能スクリプトです。新しい Replication Server を複写システムにインストールすると、**rs\_init** が Sybase インストール・ディレクトリに runserver ファイルを作成します。

runserver ファイル名は、サーバの名前をもとに作成されます。たとえば、Replication Server の名前が **ROME\_RS** であれば、その runserver ファイルの名前は **RUN\_ROME\_RS** となります。

## インストール後の作業

# Replication Server のアンインストール

製品をアンインストールします。

## 前提条件

- 管理者権限を持つアカウントを使用してマシンにログインする。
- すべての Sybase アプリケーションとプロセスを停止する。

---

**注意：** アンインストーラでは、インストール・メディアからロードされたファイルのみが削除されます。ログ・ファイルや設定ファイルなどの一部の Sybase ファイルは、管理上の目的で元のまま残されます。jre およびその他のインストールされたディレクトリも削除されません。これらのディレクトリは手動で削除する必要があります。

---

## 手順

1. アンインストール方法を選択します。
  - GUI モード (推奨)
  - コンソール・モード
  - サイレント・モード
2. 選択した方法の手順に従います。

## GUI モードでのアンインストール

---

GUI モードで Replication Server をアンインストールします。

1. 次のように入力します。

```
$SYBASE/sybuninstall/RepServer_Suite/uninstall
```
2. [次へ] をクリックします。
3. 次のいずれかを選択します。

オプション	説明
[完全アンインストール]	すべてのコンポーネントを完全に削除します。インストール後に作成されたファイルやフォルダは影響を受けません。

オプション	説明
[特定の機能のアンインストール]	アンインストールするコンポーネントを選択できます。

[次へ] をクリックします。

4. アンインストールの概要ウィンドウに、選択した内容が表示されます。内容を確認し、[次へ] をクリックします。

---

**注意：** インストール時に SySAM をインストールした場合、ウィンドウに SySAM ライセンス・ユーティリティが表示されます。SySAM ライセンス・サーバを使用する場合は、SySAM ライセンス・ユーティリティをアンインストールしないことをおすすめします。

---

[アンインストール完了] ウィンドウが表示され、削除できない項目が示されま

5. [完了] をクリックします。

## コンソール・モードでのアンインストール

---

コンソール・モードで Replication Server をアンインストールします。

1. コマンド・プロンプトで、インストール・ディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
$SYBASE/sybuninstall/RepServer_Suite/uninstall -i console
```

**uninstall** プログラムが起動します。

2. 表示されるメッセージに従って、Replication Server をアンインストールします。出力が端末ウィンドウに書き込まれるので、キーボードを使用して応答を入力します。

---

**注意：** 共有ファイルを削除するよう指示するプロンプトが表示された場合は、これらを削除しないことをおすすめします。

---

**参照：**

- コマンド・ライン・オプション (40 ページ)
- GUI モードでのアンインストール (49 ページ)

## サイレント・モードでのアンインストール

---

サイレント・モードで Replication Server をアンインストールします。

コマンド・プロンプトで、インストール・ディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
$SYBASE/sybuninstall/RepServer_Suite/uninstall -i silent
```

**uninstall** プログラムが起動します。

---

**注意：** インストーラ以外で作成したファイルを削除するよう指示するプロンプトが表示された場合は、これらを削除しないことをおすすめします。

---

**参照：**

- コマンド・ライン・オプション (40 ページ)
- GUI モードでのアンインストール (49 ページ)





## 追加の説明や情報の入手

Sybase Getting Started CD、製品マニュアル Web サイト、オンライン・ヘルプを利用すると、この製品リリースについて詳しく知ることができます。

- Getting Started CD (またはダウンロード) – PDF フォーマットのリリース・ノートとインストール・ガイド、その他のマニュアルや更新情報が収録されています。
- Sybase 製品マニュアル Web サイト (<http://sybooks.sybase.com/>) にある製品マニュアルは、Sybase マニュアルのオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。マニュアルはオンラインで参照することも PDF としてダウンロードすることもできます。この Web サイトには、製品マニュアルの他に、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、Community Forums/Newsgroups、その他のリソースへのリンクも用意されています。
- 製品のオンライン・ヘルプ (利用可能な場合)

PDF 形式のドキュメントを表示または印刷するには、Adobe の Web サイトから無償でダウンロードできる Adobe Acrobat Reader が必要です。

---

**注意：** 製品リリース後に追加された製品またはマニュアルについての重要な情報を記載したさらに新しいリリース・ノートを製品マニュアル Web サイトから入手できることがあります。

---

## サポート・センタ

---

Sybase 製品に関するサポートを得ることができます。

組織でこの製品の保守契約を購入している場合は、サポート・センタとの連絡担当者が指定されています。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

## Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード

---

Sybase Web サイトまたは SAP® サービス・マーケットプレイス (SMP) から、EBF レポートとメンテナンス・レポートを入手します。これらの場所は製品を購入した方法によって異なります。

- Sybase 認定販売店から製品を直接購入した場合：

## 追加の説明や情報の入手

- a) Web ブラウザで <http://www.sybase.com/support> を指定します。
- b) [Support] > [EBFs/Maintenance] を選択します。
- c) MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
- d) (オプション) フィルタ、時間枠のいずれかまたはその両方を選択して [Go] をクリックします。
- e) 製品を選択します。

鍵のアイコンは、認可されたサポート・コンタクトとして登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・センタから有効な情報を得ている場合は、[My Account] をクリックして、「Technical Support Contact」の役割を MySybase プロファイルに追加します。

- f) EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。
- Sybase 製品を SAP コントラクトから購入した場合：
    - a) Web ブラウザで <http://service.sap.com/swdc> を指定します。
    - b) [Search for Software Downloads] を選択し、製品名を入力します。[Search] をクリックします。

## Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認

---

動作確認レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを検証します。

動作確認に関する最新情報は次のページにあります。

- パートナー製品の動作確認については、[http://www.sybase.com/detail\\_list?id=9784](http://www.sybase.com/detail_list?id=9784) にアクセスします。
- プラットフォームの動作確認については、<http://certification.sybase.com/ucr/search.do> にアクセスします。

## MySybase プロファイルの作成

---

MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用カスタマイズできます。

1. <http://www.sybase.com/mysybase> を開きます。
2. [Register Now (今すぐ登録)] をクリックします。

## アクセシビリティ機能

---

アクセシビリティ機能を使用すると、身体障害者を含むすべてのユーザーが電子情報に確実にアクセスできます。

Sybase 製品のマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。

オンライン・マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、視覚障害を持つユーザがその内容を理解できるよう配慮されています。

Sybase の HTML マニュアルは、米国のリハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

---

**注意：**アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれませんが、詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

---

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、次の Sybase Accessibility サイトを参照してください。 <http://www.sybase.com/products/accessibility>。このサイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

製品マニュアルには、アクセシビリティ機能に関する追加情報も記載されています。

追加の説明や情報の入手

## 索引

## A

Adaptive Server

- Replication Server システム・データベース  
用 43
- アップグレード 43

## C

- charsets サブディレクトリ 26
- collate サブディレクトリ 26
- config サブディレクトリ 26

## D

- D フラグと設定
  - Replication Server 39
- dscp ユーティリティ 45
- dsedit ユーティリティ 45

## E

- Embedded Replication Server システム・データ  
ベース (ERSSD) 7, 19

## G

- GUI モード
  - Replication Server のアンインストール 49
  - Replication Server のインストール 32
- gzip ユーティリティ、HP 向け 19

## I

- interfaces サブディレクトリ 26

## L

- \$LD\_LIBRARY\_PATH 46
- \$LD\_LIBRARY\_PATH\_64 46
- \$LIBPATH 46
- log.txt ファイル 26, 40

## O

- OCS-15\_0 サブディレクトリ 26

## P

- \$PATH 46

## R

- REP-15\_5 サブディレクトリ 26
- Replication Server
  - GUI モード 28, 32
  - アンインストール、前提条件 49
  - 応答ファイルの使用 28
  - コマンド・ライン・モードでのインストール 28, 37
  - コンソール・モード 28, 37
  - コンポーネント 7
  - サイレント・モード 28, 39
  - サイレント・モードでのインストール、  
無人 37
  - 詳細 7
  - ライセンス 10
- Replication Server のコンポーネント 7
- Replication Server インストール・メディアのマ  
ウント 31
- Replication Server 設定ガイド UNIX 版 5
- repsrvr.diag プログラム 24
- rs\_init ユーティリティ 44

## S

- SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) 10,  
32
- \$SHLIB\_PATH 46
- si\_reg.xml ファイル 26
- Sybase IQ InfoPrimer 17
- Sybase\_Install\_Registry サブディレクトリ 26
- \$SYBASE\_OCS 環境変数 46
- \$SYBASE\_REP 環境変数 46

## 索引

SYBASE\_SAM\_CAPACITY 18  
SYBASE.csh ファイル 26, 46  
SYBASE.env ファイル 26, 46  
SYBASE.sh ファイル 26, 46  
Sybase インストール・ディレクトリ  
  内容 26  
\$SYBASE 環境変数 46  
Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) 10, 32  
sybase ユーザ 28  
  アカウントの作成 29  
sybuninstall サブディレクトリ 26  
SySAM 32  
  FLEXnet Publisher 12  
  IPv6 の設定 13  
  サブキャパシティ・ライセンス 12, 17  
  ライセンス・サーバ・バージョン 12  
  ライセンスのチェックアウト 14  
SySAM サブキャパシティ 17  
  稼動条件 18  
SySAM ライセンス・サーバ 12  
SySAM ライセンス・モデル 10  
SYSAM-2\_0 サブディレクトリ 26  
sysamcap ユーティリティ 10

## あ

アカウント、sybase ユーザの作成 29  
アップグレード  
  Adaptive Server Enterprise 43  
アップグレード時  
  混合バージョンの環境 9  
アンインストール  
  GUI モード、Replication Server 49  
  コンソール・モード、Replication Server 50  
  サイレント・モード、Replication Server 51

## い

インストーラ  
  カスタム・インストール 27, 32  
  起動時のエラー 32  
  通常のインストール 32  
  標準インストール、通常 27

フル 27  
フル・インストール 32  
インストール  
  GUI モード 32  
  Replication Server Data Assurance (DA) オプション 37  
  Replication Server システム・データベース用の Adaptive Server 43  
  Replication Server、-D フラグの使用 39  
  Replication Server の CD または DVD、マウント 31  
概要 5  
計画 9  
サイレント・モードまたはコンソール・モードでのトラブルシューティング 40  
タスク・フロー 5  
標準のソフトウェア・コンポーネント 32  
ログ・ファイル、Replication Server 40  
インストールが正しく実行されたかどうかの確認

  Replication Server で 32  
インストール後の作業  
  Replication Server 43  
インストール後のログ・ファイルの確認 43  
インストール・ディレクトリ  
  内容 26  
インストールの種類  
  カスタム 27, 32  
  通常 27  
  標準 32  
  フル 27, 32  
インストール方法  
  Replication Server 31  
インストール前の作業 9

## え

エラー  
  インストーラの起動時 32

## お

応答ファイル  
  Replication Server、作成 38  
  インストール、Replication Server 28

コマンド・ライン・モードのインストール  
28  
オペレーティング・システム  
稼働条件 19  
パッチの要件 23

## か

### 概要

SySAM サブキャパシティ・ライセンス  
10  
SySAM ライセンス 10  
インストール 5  
カスタム・インストール 27, 32  
環境変数  
\$LD\_LIBRARY\_PATH 46  
\$LD\_LIBRARY\_PATH\_64 46  
\$LIBPATH 46  
\$PATH 46  
\$SHLIB\_PATH 46  
\$SYBASE 46  
\$SYBASE\_OCS 46  
\$SYBASE\_REP 46  
dsedit に必須 45  
SYBASE\_SAM\_CAPACITY 18  
設定 46  
表 46  
環境変数の設定 46  
管理作業 28

## き

### 起動

サンプル Replication Server 44

## く

グラフィカル・ユーザ・インタフェース (GUI)  
インストール 28

## こ

### コマンド

ソース 46

コマンド・ライン・インストール  
Replication Server 37

混合バージョンの要件 9

### コンソール・モード

Replication Server のアンインストール 50  
Replication Server のインストール 37  
応答ファイル、Replication Server のインス  
トール 38  
トラブルシューティング 40

## さ

### サイレント・モード

Replication Server のアンインストール 51

### サイレント・モード・インストール

Replication Server 28, 39  
応答ファイル、Replication Server のインス  
トール 39  
トラブルシューティング 40

### 作業、管理 28

### 作成

Replication Server の応答ファイル 38  
sybase ユーザ・アカウント 29

### サブディレクトリ

charsets 26  
config 26  
interfaces 26  
OCS-15\_0 26  
REP-15\_5 26  
Sybase\_Install\_Registry 26  
sybuninstall 26  
SYSAM-2\_0 26

### サポートするプロトコル 19

## し

### システム稼働条件 19

### システム・パッチ

現在インストールされているシステム・  
パッチのリスト 23

## せ

製品エディション、タイプ 14

## そ

ソース・コマンド 46

ソフトウェア、問題の診断 24

## 索引

ソフトウェアの問題の診断 24

## た

対話型モード

応答ファイル、Replication Server のインストール 28

## つ

通常インストール 32

## て

定義

runserver 47

ディスク領域の要件 19

ディレクトリ

Sybase\_Install\_Registry 32

インストール、構造 24

デフォルト 32

デフォルト・ディレクトリ 32

## と

トラブルシューティング

コンソール・モードまたはサイレント・モードのインストール時 40

## は

バージョンの制限、アップグレード時 9

## ひ

表

システム稼働条件 19

表記規則

構文 1

スタイル 1

標準インストール 27, 32

## ふ

ファイル

log.txt 26, 40

runserver 47

si\_reg.xml 32

SYBASE.csh 26, 46

SYBASE.env 26, 46

SYBASE.sh 26, 46

インストール・ログ、Replication Server 32, 40

複写システムのプラン作成 5

プラットフォーム

mount コマンド 31

プラットフォームごとの mount コマンド 31

フル・インストール 27, 32

プログラム

repserver.diag 24

## へ

変更

remove si\_reg.xml ファイル 26

## ゆ

ユーティリティ

dscp 45

dsedit 45

gzip 19

rs\_init 44

sysamcap 10, 18

## よ

要件

オペレーティング・システム 19

オペレーティング・システム・パッチ 23

ディスク領域 19

## ら

ライセンス

Sybase Control Center 16

Sybase IQ InfoPrimer の統合 17

サブキャパシティ 17, 18

取得 10

タイプ 14, 17

プロセッサの数のチェック 14

ライセンス・モデル 10

ライセンスの取得 10



ライブラリ  
    SMP ランタイム 19  
ランタイム・ライブラリ 19

**り**

リリース・ノート 9

**ろ**

ログ・ファイル、インストール後の確認 43

